

ミュージアムパーク茨城県自然博物館第 52 回企画展
「昆虫大冒険－タケルとケイの不思議な旅－」の記録

久松正樹・小泉直孝・山崎晃司・湯本勝洋・石田容之

**Records of the 52nd Special Exhibition of “Adventure in the
Insect World -The Wonderful Journey of Takeru and Kay-”**

Masaki HISAMATSU, Naotaka KOIZUMI, Koji YAMAZAKI,
Katsuhiro YUMOTO and Hiroyuki ISHIDA

茨城県自然博物館研究報告 第 15 号別刷

平成 24 年 12 月発行

Reprinted from Bulletin of Ibaraki Nature Museum No.15

December, 2012

ミュージアムパーク茨城県自然博物館第 52 回企画展 「昆虫大冒険－タケルとケイの不思議な旅－」の記録

久松正樹*・小泉直孝**・山崎晃司**・湯本勝洋***・石田容之**

(2012 年 10 月 6 日受理)

Records of the 52nd Special Exhibition of “Adventure in the Insect World -The Wonderful Journey of Takeru and Kay-”

Masaki HISAMATSU *, Naotaka KOIZUMI **, Koji YAMAZAKI **,
Katsuhiro YUMOTO *** and Hiroyuki ISHIDA **

(Accepted October 6, 2012)

Abstract

Ibaraki Nature Museum held its 52nd special exhibition from July 9 to September 19, 2011 titled “Adventures in the Insect World - The wonderful journey of Takeru and Kay -.” This exhibition presented the diverse ecology of insects. The exhibition was structured like an expedition into the world of insects, using mascot characters, to make the display easier to understand. During the exhibition, a number of events were held with the help of volunteers from Ibaraki Nature Museum.

Key words: Adventures in the Insect World, special exhibition, volunteer activities.

はじめに

ミュージアムパーク茨城県自然博物館（以下“茨城県自然博物館”）は、“自然科学に関する資料の収集、保管及び展示を行い、公共の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること”を目的に 1994 年 11 月 13 日に開館した茨城県立の自然史系の博物館である。利根川に程近い茨城県南西部の坂東市に立地し、延床面積 1.2 万 m² の本館展示室に 13.5 ha の野外施設を併設している。また、県内最大の自然環境保全地域に指定された菅生沼 (232 ha) に隣接している（久松, 2011）。

茨城県自然博物館では、コレクション機能（資料の収集保管・調査研究）とコミュニケーション機能（展示・教育普及・連携）が、博物館活動の基本的な機能として位置づけられマネジメントされている（ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 2005）。また、調査研究の結果などを来館者に紹介する企画展は、機能同士を深く結びつける役割を果たしており、かつ、当館への再来館の理由に、企画展の見学を目的に挙げる来館者も多いことから、運営にも大きな影響をあたえている（久松, 2011）。

茨城県自然博物館では、2011 年 7 月から 9 月にかけて「ミュージアムパーク茨城県自然博物館第 52 回企画

* つくば市立前野小学校 〒 300-3267 茨城県つくば市前野 1367 (Maeno Elementary School, 1367 Maeno, Tsukuba, Ibaraki 300-3267, Japan).

** ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒 306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

*** 結城市立城南小学校 〒 307-0001 茨城県結城市城南町一丁目 11 (Jonan Elementary School, 1-11 Jonan, Yuki, Ibaraki 307-0001, Japan).

展 昆虫 大冒険－タケルとケイの不思議な旅－」(以下「昆虫展」と呼ぶ)を開催した。昆虫展では、運営において多くのボランティアや筑波研究学園都市在住の研究者の方々の協力をいただいた。そこで、活動の詳細をここに記録し、併せて企画展運営、強いては博物館運営におけるボランティアの役割について考えてみたい。

昆虫展の概要

1. 展示の目的

茨城県自然博物館の来館者のグループ構成をみると、「家族・親戚」での来館が年間を通して8割を超え、その大半は20～40代の夫婦と子どもで構成される家族である(戸塚, 2006)。そこで昆虫展では、多くの昆虫資料を見せると同時に、家族共通の話題で会話ができるような展示構成を考え、目的を次のようにした。

〈展示の目的〉

昆虫は、地球上に生息する種数が100万とも300万ともいわれ、地球上で最も繁栄した生きものの1グループといえる。また、その種類の多様性もさることながら、生き方も千差万別である。昆虫展では、昆虫の種と生態の多様性をあらゆる角度から紹介することで、身近にしながら意外と知られていない昆虫の姿や生き方に気づいてもらうことを目的とする。

なお展示では、父親世代の昆虫関連の資料を展示したり、生き虫を展示したりして、親子が“虫”を通して、自然の不思議さを語り合えるようなきっかけづくりができるような工夫を行う。

2. 会期

平成23年7月9日(土)～9月19日(月)

3. 展示構成

昆虫の種の多様性と、生態の多様性をあわせて紹介するために3部構成とし、第1部では種の多様性を、第2部では生態の多様性を紹介することとした。第3部では、1, 2部を総括させるために、懐古的な内容を含めて昆虫と人との関わりを取り上げた(表1, 図1)。また、展示のナビゲーターとしてキャラクターを設定し(図2)、キャラクターが昆虫ワールドを探検するような構成にした。

展示資料は、昆虫の乾燥標本が2,798種20,747個体、

生き虫13種、その他資料が概数で200種400点であった。昆虫標本については、一部、群馬県立自然史博物館、千葉県立中央博物館、栃木県立博物館の標本を借用した。生き虫については(株)ミタニおよび群馬県立ぐんま昆虫の森の協力を得た。そのほか展示物では、(独)農業生物資源研究所などの研究機関や、島崎憲司郎氏らの協力を得た。

4. 体験活動の導入

茨城県自然博物館の来館者には幼稚園児、小学生、中学生が多いことから、当館ではハンズ・オン展示など体験的な展示の有効性が示されている(太田, 2003)。そこで、今回の昆虫展では、クイズ問題(図3)や、ミニ実験コーナーを設置し、見るだけではない体験的な活動ができる展示の工夫を行った。これらの運営は、茨城県自然博物館ボランティアの昆虫チームが中心になって実施した。さらに、筑波研究学園都市に近い地域的な特徴も生かし、地元の研究者による実験(観察)も行った。

さらに、野外施設を有する当館の特長を生かして、標本の昆虫を見るだけではなく、生きた昆虫を見たり触れたりする機会を増やしたいと考え、連続昆虫観察会など野外での活動も積極的に取り組んだ。また、異なる角度から昆虫を見るイベントとして、江戸家猫八師匠に来ていただいて虫の鳴き声の物まねを聴く会を開催した。これらイベントの詳細は表2に示す。

そのほかに、ワークブックの作製、また、カブトムシやカイコ(幼虫)のほかに外国産カブトムシなどの生き虫の展示を行った。

昆虫展におけるボランティアの活動

昆虫展におけるボランティアの活動は、前述のように主に展示室の体験的な活動を行う場での活動が中心であった。以下に、主に行った“昆虫クイズの採点”と“ミニ実験コーナーの運営”について記す。

1. 昆虫クイズの採点

昆虫クイズは、昆虫展の第1部「さまざまな昆虫」コーナーに設けた15問のクイズである。全15問のうち、10問以上の正解者には景品(昆虫の絵はがき)を与えることとした。ボランティアは、昆虫クイズの採点、景品の受け渡し、簡単な解説を行った。なお、第2, 3部の展示を見ながら行う昆虫クイズを新たに4種類作成

表 1. 企画展の展示構成と主な展示物.

Table 1. The display configuration and main specimens of the exhibition.

コーナータイトル	主な展示品
プロローグ	
タケルとケイは、夏休みのある日、今まで見たことのないようなきれいなチョウを見つける。夢中で追いかける兄妹。輝くチョウを追いかけた 2 人は、昆虫ワールドに迷い込んでしまう。	
モルフォの誘い	モルフォチョウなど
第 1 部 さまざまな昆虫	
昆虫ワールドに迷い込んだタケルとケイ。昆虫の種類の多さに驚きながら、同じ種類なのに地域によって模様が違ったり、さまざまな色の昆虫がいたりすることに気づく。	
甲虫のかっこよさ	コウチュウ類標本
魅惑のチョウ	チョウ類標本
華麗なるトンボの飛行テクニック	トンボ類標本
姿を隠す虫	バッタ、ナナフシ、カマキリ類標本
ハチはメスしか刺さない	ハチ類標本
水の中の虫たち	トビケラ、カワゲラ、カゲロウ類標本など
土の中の虫たち	トビムシ、カマアシムシ、シミ、イシノミ、コムシ類標本など
嫌われ者の虫たち	ゴキブリ、ハエ、カメムシ類標本
無視される虫たち	シロアリ、ハサミムシ、アミメカゲロウ、カカトアルキ、シリアゲムシ、ガロアムシ、ネジレバネ類標本など
虫の家	ヘラクレスオオカブトなど生き虫
その他	季節別昆虫標本、動物区別昆虫標本、霞ヶ浦周辺の昆虫標本
第 2 部 知られざる昆虫の不思議	
昆虫の種類の多さや姿の多様さに驚いた二人は、さらに昆虫の生きる工夫を知ること、生きものとしての不思議さに驚かされる。	
どこにもいる虫	多様性に関する標本、地域変異に関する標本
昆虫の歴史をたどる	昆虫化石標本
昆虫とのさまざまな関係	共生や寄生に関する標本
姿を似せる虫	擬態に関する標本
虫の一生	完全変態・不完全変態に関する標本
会話する虫	ミツバチの 8 の字ダンスやホタルの光に関する標本など
社会性昆虫	ミツバチなどの標本など
増えている虫・減っている虫	絶滅のおそれのある昆虫、北上している昆虫など
第 3 部 虫と人との今昔（エピローグにかえて）	
昆虫の不思議な生態に圧倒されはじめたタケルとケイは、意外にも人と昆虫と深い関わりがあることを知る。昆虫の世界に迷い込んだ二人の兄妹は・・・	
虫と信仰	虫除け祈願の人形など
虫と言葉	昆虫カード、昆虫カルタなど
人工の虫・虫を食べる	毛鉤、ザザムシの佃煮、蚕の缶詰など
先端科学と昆虫	光る蚕のまゆ、ネムリユスリカ、夏休み自由研究作品など
昆虫ヒーロー	仮面ライダー・ポケモンフィギュアなど
虫を集める魅力	昆虫採集道具など
その他	昭和 30 年代を模した民家（蚊帳、蚊取り線香、昆虫採集セットなど）

したので、ボランティアは 5 種類の昆虫クイズの採点 行った。
を行ったことになる。

昆虫クイズへの参加者は延べ 15,319 名を数えた。
この、昆虫クイズの採点には、44 人のボランティア
と、7 人の茨城県立岩井高等学校生物部の生徒、5 人の
茨城県自然博物館ジュニア学芸員、3 人の学芸員実習
生が行った。開催初日の 7 月 9 日から最終日の 9 月 19
日までの全ての開催期間中で活動したので、計 64 日
に延べ 465 人のボランティアが 2,038.5 時間の活動を

2. ミニ実験コーナーの運営

ミニ実験コーナーでは 16 の企画を、祝祭日を中心に
31 回行い、延べ 150 人のボランティアが活動した。企
画への参加者は、約 1,600 人であった。なお、博物館主催
のイベントは、9 つの企画で 726 人の参加者であった。



図 1. 昆虫展の展示風景.

a: 第 1 部 さまざまな昆虫, b: 第 2 部 知られざる昆虫の不思議, c: 第 3 部 虫と人との今昔, d: 昆虫クイズ, e: 昆虫クイズ採点の様子.

Fig. 1. View of the exhibition. a: Part 1 The various insects; b: Part 2 Unknown wonders of the insects; c: Part 3 The effects of time on insects and humans; d: The insects quiz, e: Answers to the insects quiz.

昆虫展の評価

1. 来館者数・満足度など

昆虫展の会期中の総来館者数は 95,650 人であった。この人数は、茨城県自然博物館で同時期に開催された企画展と比べ同程度である (表 3)。東日本大震災後であること、原発事故の風評被害が少なからず発生していることを考えれば、数字以上の意味をとらえてもよいと考えられる。

来館者の中から、小学生以上の 185 名 (小中高高校生: 39 名, 大人: 146 名) に昆虫展に関するアンケートを依頼した。それによると、昆虫展の印象を“ひじょうにおもしろかった”“まあまあおもしろかった”“どちらともいえない”“どちらかといえばつまらなかった”“つまらなかった”の 5 段階の満足度の評価で、“ひじょうにおもしろかった”と“まあまあおもしろかった”の合計割合が 96.8%を占め、満足度は高かった (表 4)。展示標本で感じたことを問う質問では、“昆虫にはさまざま

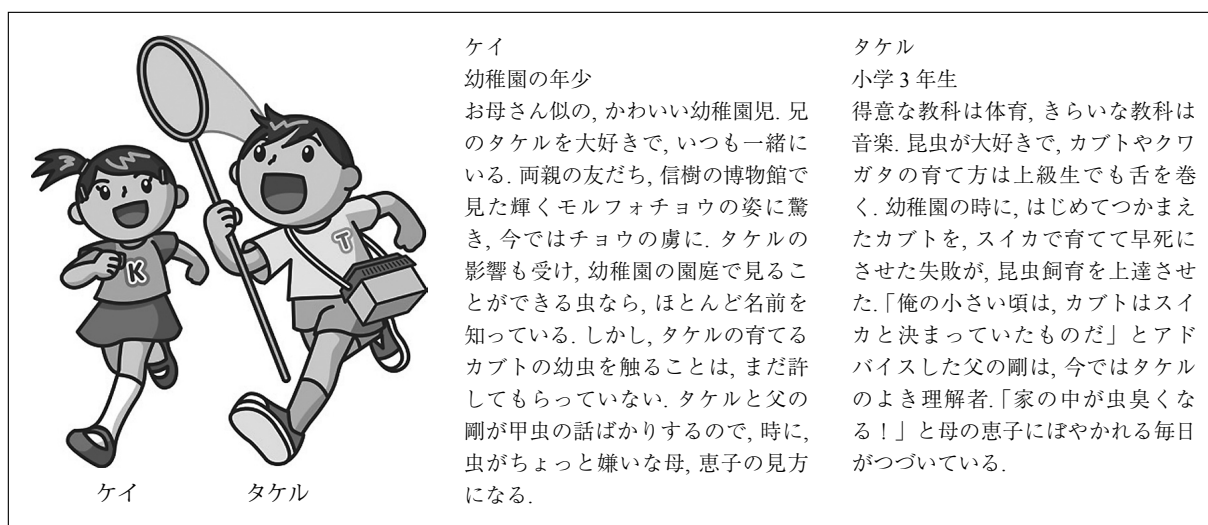


図2. 昆虫展のナビゲーターとして用いたキャラクター。

Fig. 2. The mascot characters to navigate the exhibition.



図3. 昆虫クイズ。

Fig. 3. The insects quiz.

まな種類”があると感じた割合が8割を占めた(表5)。今回の展示は、約3千種で2万点を超える資料を展示したので、前述のように感じたのであろう。

企画展を運営する面でよかったことを問う質問では、8割の方が昆虫クイズを挙げた(表6)。昆虫クイズへの実際の参加者は延べ15,319名を数え(表2)、昆虫展開催期間の総来館者数95,650人のうち約16%が昆虫クイズを行ったことになる。当館の企画展において、体験活動の参加人数を数えたことはなく、体験活動を参加人数によって評価するのは難しい。しかし、運営面で高評価を得たことを含めて考えると、今回の昆虫展では、昆虫クイズが展示の印象に大きな効果を与えたことに間違いはないと思われる。

昆虫展の観覧時間は、アンケートを実施した185名の平均で40.8分であった。同様の調査を実施した「第52回企画展46億年の旅路の果てに～隕石がみてきたもの～」(以下“隕石展”と呼ぶ)の観覧時間は、146名の平均で28.4分、「第53回企画展恐竜発掘～過去からよみがえる巨大動物～」(以下“恐竜展”と呼ぶ)では305名の平均で29.6分であった。隕石展と恐竜展の観覧時間には優位な差はなかった(t 検定、 $t > 0.01$)が、昆虫展との隕石展、恐竜展との観覧時間には優位な差が見られた($t < 0.01$)。前述の昆虫クイズへの参加人数や感想から評価すると、観覧時間が長かったのは、昆虫クイズの実施にともなう要因が最も大きいと考えられる。

2. 来館者の声

茨城県自然博物館では、主に展示活動についての内容や運営面での調査を行うために“博物館モニター”制度を導入しており、企画展では自由記述式で意見の提出を求めている。昆虫展においても61人が感想を寄せており、大まかに、1) 豊富な種と標本の展示、2) 昆虫クイズの運営、3) 開催時期、4) 並べ方を含む標本の美しさ、5) ボランティアの対応について、高評価を得た。以下に、代表する2名の感想を記す。

〈博物館モニターの昆虫展の感想〉

・とても楽しめました。夏休みはやっぱり昆虫展！
ですね。これでこの企画展中3度目ですが、毎回人

表 2. 企画展会期中の行事.

Table 2. Events held during the exhibition.

行 事 名	日 時	講 師	参加人数
オープニング講演会「昆虫の不思議」 連続昆虫観察	7月9日(土) 13:30-15:00	矢島 稔(ぐんま昆虫の森園長)	146
菅生沼のトンボ	7月30日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	廣瀬 誠(茨城県環境アドバイザー)	58
砂はきバチの不思議	8月6日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	山根爽一(茨城大学教育学部教授)	39
トラップでゴミムシ調査	8月13日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	松本和馬(森林総合研究所森林昆虫研究領域)	30
チョウの魅力	8月20日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	井上大成(森林総合研究所多摩森林科学園)	49
アリジゴクを探せ	8月27日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	榎本友好(茨城県環境アドバイザー)	58
昆虫研究発表会	7月24日(日) 10:00-12:00		56
江戸家猫八師匠による虫の鳴き声聞き会 とびだせ!子ども教室 朝から晩まで昆虫観察	8月7日(日) 13:30-15:00	江戸屋猫八	242
ミニ実験	7月23日(土) 10:00-20:00	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	48
* 昆虫の体の中を覗いてみよう	7月10日(日)	山川 稔(茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム)	50 ***
* フェロモンの不思議—シロアリに魔法をかける	7月18日(月)	山川 稔(茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム)	250 ***
* 化石クリーニング紹介	7月26日(火)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* 化石クリーニング紹介	7月27日(水)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* 化石クリーニング紹介	7月29日(金)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* 化石クリーニング紹介	7月30日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
** 宇宙へ飛んだ「ユスリカ」の秘密	7月31日(日)	奥田 隆(農業生物資源研究所・昆虫科学領域・乾燥耐性ユニット長)	171
* 化石クリーニング紹介	8月3日(火)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
** 折り紙で昆虫を作ろう	8月5日(金)	牛久折り紙の会	50 ***
* 化石クリーニング紹介	8月6日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* クマムシをさがそう	8月6日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・コケ班	10 ***
* 化石クリーニング紹介	8月10日(水)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
** イモムシの変態の仕組みを探る	8月14日(日)	神村 学(農業生物資源研究所・昆虫科学領域・制御剤標的遺伝子研究ユニット主任研究員)	42
* 化石クリーニング紹介	8月19日(金)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* 目で見る昆虫の遺伝子	8月21日(日)	山川 稔(茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム)	67
* 化石クリーニング紹介	8月26日(金)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
** 虫と植物—食べる側と食べられる側の激しい戦い	8月28日(日)	今野浩太郎(農業生物資源研究所・昆虫科学領域・昆虫—昆虫・植物間相互作用研究ユニット主任研究員)	139 ***
* 化石クリーニング紹介	8月31日(水)	茨城県自然博物館ボランティア・化石チーム	20 ***
* チョウの食草を探せ!	8月31日(水)	茨城県自然博物館ボランティア・植物チーム	50 ***
* 鱗粉転写 チョウの翅を写し取ってきれいな絵はがきを作ろう	9月4日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	50 ***
* 昆虫紙芝居	9月4日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	60 ***
* チョウの食草を探せ!	9月7日(水)	茨城県自然博物館ボランティア・植物チーム	50 ***
* ネイチャーゲーム「色イロな虫を探せ」	9月10日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・ネイチャーゲームチーム	100 ***
* 昆虫標本の作り方	9月10日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	20 ***
* 昆虫紙芝居	9月11日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	100 ***
* 鱗粉転写 チョウの翅を写し取ってきれいな絵はがきを作ろう	9月11日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	62
* 野外ミニ観察会	9月17日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	30 ***
* 昆虫紙芝居	9月17日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	42
* 昆虫折り紙	9月17日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	38
* 難問解決!ボランティアの底力—ボランティアによる昆虫クイズ解説—	9月18日(日)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	50 ***
* 昆虫展も今日でお終い。お楽しみイベント—何が出るのか?すべては来てのお楽しみ!—	9月19日(土)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム	50 ***
* 昆虫クイズの採点	7月9日(土)-9月19日(月)	茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チーム及びその他チーム、茨城県自然博物館ジュニア学芸員、岩井高等学校生物部、博物館実習生など	15,319
総参加者数			約1.7万人

*: 茨城県自然博物館ボランティア・昆虫チームが主体となって行った行事

**: 茨城県自然博物館ボランティア以外の方が行った行事

***: おおよその参加人数

表3. 茨城県自然博物館の最近5年間の夏の企画展の入館者数.

Table 3. Number of visitors to the summer exhibition of Ibaraki Nature Museum over the last five years.

年	企画展タイトル	開催期間	入館者数*	日平均入館者数
2011	昆虫大冒険 ～タケルとケイの不思議な旅～	64	95,650	1,495
2010	そうだ！海だ！海藻だ！ ～いのちをつなぐ海の森～	64	92,706	1,449
2009	姿なき化石 ～足あとから過去をひも解く～	65	95,045	1,462
2008	熊 ～森のアンブレラ種～	62	91,757	1,480
2007	キラ・オラ！ニュージーランド ～キーウィと人がくらす島～	69	112,478**	1,630

*: 入館者数は、移動博物館等の人数を減した数.

**: 移動博物館の人数不明の日が2日あり、多少人数が増えている.

表4. 「昆虫展」の満足度のアンケート結果.

Table 4. Results of the questionnaire on exhibition.

満足度のランク	回答数	割合
ひじょうにおもしろかった	106	57.3%
まあまあおもしろかった	73	39.5%
どちらともいえない	6	3.2%
どちらかといえばつまらなかった	0	
つまらなかった	0	
未回答	0	
計	185	100%

表5. 「昆虫展」の展示で感じたこと(複数回答可).

Table 5. Impressions of the exhibition. Multiple answers allowed.

標本展示で感じたこと	回答数	割合 (回答数/回答者数)
昆虫にはさまざまな種類がある	148	80.0%
昆虫にはさまざまな生き方(生態)がある	71	38.4%
日本人は昔から昆虫とつき合っていた	39	21.1%
昆虫を利用したさまざまな研究(子どもの自由研究を含む)が行われている	19	10.3%
そのほか	2	1.1%
昆虫自身(羽根など)の色の美しさ、模様の面白さなど		
虫とりがしたくなった. 虫好きな方はとても几帳面だと感じた. 標本作りはとても細いので.		
未回答	3	1.6%
回答者の人数	185人	

出が多いように思います. クイズラリーも毎回増やして頂いて、子供達すっかり虜です. ボランティアの方々もとても親切で、丁寧にいろいろ詳しく教えて下さいました.

・子供が待ちに待った企画でした. 楽しく様々に工夫された内容で素晴らしい企画展でした. エントランスからオシャレな標本のレイアウト. それを抜けるとオオクワガタとの力比べができること

や、本物の昆虫たち、たくさんの標本、楽しいクイズと次々とワクワク感が増し大満足でした. 子供は特にクワガタ、カブトの甲虫類が好きなので標本の種類の充実さに大変喜んでいました.

一方、「もっとスペースを割いて「アンリファーマブル」や「ファーマブル昆虫記」を紹介展示すべきではないのか。」や「擬態など、どうしてあのように人間が見てい

表 6. 「昆虫展」の運営でよかったと感じたこと (複数回答可).

Table 6. Good points of the management of the exhibition. Multiple answers allowed.

昆虫展の運営面でよかった点	回答数	割合 (回答数/回答者数)
昆虫クイズ	147	79.5%
ワークブック	15	8.1%
ボランティアによる昆虫クイズ採点やミニ実験	43	23.2%
猫八師匠の講演会や連続昆虫観察会などの各種イベント	6	3.2%
そのほか	11	5.9%
昆虫の展示		
実物が見られてためになった		
ディスプレイに力を入れているのがよくわかった. センスを感じた		
カイコを食べた館長の感想文		
生きているものがいたこと		
クワガタの力比べ. 子どもと一緒になので		
展示の数の多さ		
クワガタと力比べ		
カマドオマがわかってよかった		
など		
未記入	15	8.1%
回答者の人数		185人

かにも落葉に見えるような進化ができたのか不思議です. 解説がほしいと思いました.] というような, 展示の詳細な内容に関する意見が寄せられた.

今回の昆虫展の目的は, “昆虫の種と生態の多様性をあらゆる角度から紹介することで, 身近にしながら意外と知られていない昆虫の姿や生き方に気づいてもらう” ことであった. 豊富な種と標本の展示に関心を抱いた来館者が多く, 当初の目的は概ね達成できたと考えられる. しかし, より詳細な内容の展示を求める傾向もあり, 分かりやすい展示と, より深みのある展示の両立が求められよう.

3. 昆虫展運営におけるボランティアの役割

昆虫展は, 「昆虫クイズの実施によって好評価を得て, 併せて観覧時間が長くなった」ことが大きな特徴といえる. 企画展展示室内に, 昆虫クイズおよびミニ実験コーナーの体験コーナーを設置するに当たっては, 職員だけでは対応できない内容であったため, 運営の大半を茨城自然博物館ボランティアの昆虫チーム (以下 “昆虫チーム” と呼ぶ) に依頼した. 計画の段階よりボランティアに状況を伝えと共に, ボランティア役員会等で他のボランティア・チームにも協力依頼をしてきた. その結果, 延べ 465 人のボランティアが 2,038.5 時間の活動を行うことにつながった. 運営面でよかった点を見ると, “昆虫クイズ” に次いで “ボランティアによる昆虫クイズ採点やミニ実験” を挙げる回

答が多かった. 昆虫クイズの採点・解説はボランティアが行ったことを考えれば, 昆虫展の好評価を支えた昆虫クイズは, ボランティアの活動によるものともいえる.

今回の活動を, ボランティア自身がどう捉えているか, 自由記述式のアンケートを依頼した. 17 名からの回答を得, それによると参加して良かった点として「クイズの採点をすることで昆虫の勉強になった」(11 名) との回答がもっとも多く, ボランティア自身の研修につながったといえる. 次いで「来館者が採点・解答を通して, 楽しんでいたこと」(8 名), 「お客様との対話が楽しかった」(6 名) という内容が上位を占めた. 昆虫クイズやミニ実験コーナーでの活動は, ボランティアと来館者を直接結びつけ, 活動としても楽しい場になったことが伺える. そのほかに「企画展の中でボランティアと来館者が, クイズを通してふれあうことができ新しい試みだった.」や「家族でクイズに挑戦する姿から, あたたかいふれあいや絆をかんじることができました.」との意見も寄せられた. ボランティアに企画展等へ積極的に関与させることで新たな活動が提供できること, 来館者の評価を直接受けることから通常の活動以上に結果がボランティアにフィードバックすることが分かった. なお, 今回の活動では昆虫チームに寄るところが大きかった. 同様の企画を行う際は, 負担の分担, 軽減措置などを整えていく必要がある.

謝 辞

東日本大震災の影響で、茨城県自然博物館は展示物の復旧などのために3月31日まで休館した。そのような中、昆虫展が計画通り開催されるかどうか危惧されたが、関係者のご尽力により予定通り進むことになった。感謝申し上げる。来館した子どもたちが昆虫を観る生き生きとした顔は、昆虫展企画者の震災で疲弊した心身を大いに癒してくれるものだった。

引用文献

- 久松正樹. 2011. 博物館だより (4) ミュージアムパーク茨城県自然博物館の昆虫に関する調査研究、普及活動について. 昆虫 (ニューシリーズ), **14**(3): 242-248.
- 太田俊彦. 2003. 企画展におけるプレイコーナーについて. 茨城県自然博物館研究報告, (6): 139-148.
- 戸塚佳代子. 2006. ミュージアムパーク茨城県自然博物館の来館者の意識と動向－来館者のアンケートからみる10年の軌跡－. 茨城県自然博物館研究報告, (9): 89-94.

(要 旨)

久松正樹・小泉直孝・山崎晃司・湯本勝洋・石田容之. ミュージアムパーク茨城県自然博物館第52回企画展「昆虫大冒険－タケルとケイの不思議な旅－」の記録. 茨城県自然博物館研究報告 第15号 (2012) pp.105-113.

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、2011年7月9日から9月19日にかけて「第52回企画展 昆虫 大冒険－タケルとケイの不思議な旅－」を開催した。この企画展では、昆虫の種と生態の多様性をあらゆる角度から紹介した。また、親しみやすい展示にするために、ナビゲーター役のキャラクターを設定し、昆虫ワールドを探検するような構成にした。開催期間中は、ボランティアの協力を得て数多くのイベントを行った。

(キーワード): 昆虫大冒険, 企画展, ボランティア活動.